

## 大学の給排水設備の老朽化対策により、教育研究機能を強化する

## 【対策】93 国立大学施設等の老朽化・防災機能強化対策

対策概要: 教育研究上著しく支障がある施設(ライフラインを含む)について、事故等のリスクを抱えた老朽施設の改善及び電気・水・ガス等のライフラインの更新等を実施する。

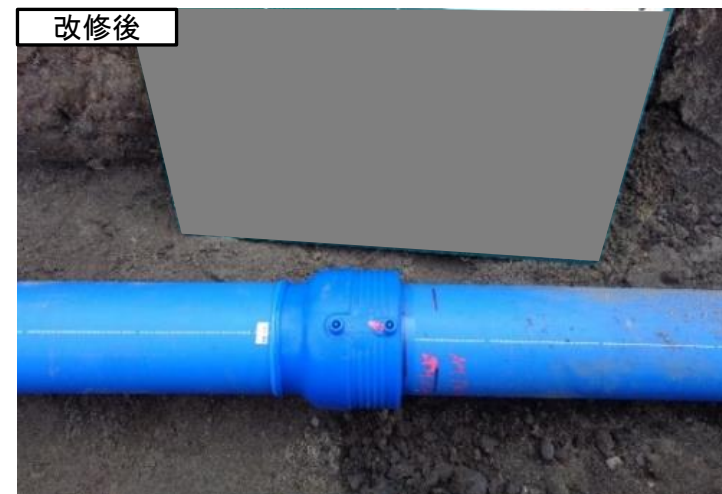
府省庁名: 文部科学省

## 【事例】東北大学(川内)ライフライン再生(給排水設備)

- 実施主体: 国立大学法人 東北大学
- 実施場所: 宮城県仙台市
- 事業概要: 国立大学等の給排水設備は、広大なキャンパス全体に敷設され教育研究活動の基盤となっているため、健全性の確保が重要である。しかし、整備後60年以上経過するなど老朽化が著しいものが多く、平時においても漏水事故等が多発している状況であった。給排水設備が故障するとキャンパス全体が断水する可能性があり、授業の休講や研究の停止など、教育研究活動に多大な影響を及ぼす恐れがあったため、老朽化した給排水管の更新を実施した。
- 事業費: 約1.9億円  
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)約1.9億円)
- 効果: 大学内の給排水設備の更新により、地震等による漏水・断水のリスクを低減し、教育研究活動への影響を最小限に抑えることができる。令和4年3月の福島県沖地震では震度5強を観測したが、断水等の被害はなかった。



腐食により給水管が破損したり、給水管内部の発錆により赤水が発生



耐震性・耐候性の高いポリエチレン管へ更新